日　教学入門

一教学入門一①　日蓮大聖人の御生涯

※大聖人の御生涯の業績について、次頁の語群から言葉を選んで文章を完成させなさい。
※四角の空欄箇所は、最終的には語群なしでも記入できるように学習して下さい。

【1】誕生・出家・遊学
日蓮大聖人は（　貞応元年　2月16日　）に誕生しました。

【2】立宗宣言
（　建長5年　4月28日　）、大聖人は32歳の時に（　立宗宣言　）されました。
念仏等を激しく破折するとともに（　南無妙法蓮華経　）の題目を唱え、末法の民衆救済の唯一の正法を宣言されました。このとき自らを（　日蓮　）と名乗りました。
弘教の初期に、富木常忍・（　四条金吾　）・池上宗仲らが入信しました。

【3】立正安国論の提出と法難
（　文応元年　7月16日　）、大聖人は「（　立正安国　）論」を著し、
（　北条時頼　）に提出されました。大聖人による最初の（　国主諫暁　）です。
この書において大聖人は、邪法への帰依を改めなければ（　自界叛逆　難　）と（　他国侵逼　難　）の二つの災難が起こると予言しました。

【4】竜の口の法難と発迹顕本
文永8年の大旱魃に際して、（　　A　　）が祈雨をすることを知った大聖人は祈雨対決を申し入れ、（　A　）は大敗北します。怨みを持った（　A　）は権力に働きかけて弾圧を加えます。（　文永8年　9月12日　）、大聖人は武装した兵士を率いた（　B　）の襲撃を受け、竜の口の処刑場へと不法に連行されます。
この時、大聖人は（　B　）に対して2度目の（　国主諫暁　）を行っています。首を切られようとしたその時に光りものが空を横切り、恐れ慄いた兵士は処刑ができませんでした。この事件を（　竜の口の法難　）と言います。
この出来事を通じて大聖人はご自身が凡夫という迹（仮の姿）を開いて久遠元初自受用報身如来という本地（本来の姿）を現わしました。
この出来事を（　発迹顕本　）と言います。
※A欄、B欄にはそれぞれ同じ人物の名前が入ります。その名前を書きなさい。
A（　極楽寺良観　）　B（　平左衛門尉頼綱　）

【5】佐渡流罪
（　文永8年10月10日　）、大聖人の（　佐渡　流罪　）が決まります。
文永9年1月には北陸・信越一円から集まった諸宗の僧らと法論を行い、論破します。これを当時滞在され問答が行われた地名をとって（　塚原問答　）と言います。
2月には北条一門の同志討ちが起こり（　立正安国　論　）で予言した（　自界叛逆　難　）が現実になります。この内乱を（　二月騒動　）と言います。
流罪中の佐渡でも多くの門下が誕生しました。
中心となった門下には（　阿仏房・千日尼　）の夫妻がいます。

佐渡流罪中の業績として重要な御書の執筆が挙げられます。
中でも文永9年2月に著された「（開目抄）」は（人本尊開顕の書）、文永10年4月に著された「（観心本尊抄）」は（法本尊開顕の書）と呼ばれています。
文永11年2月に赦免され鎌倉に帰られた大聖人は、（平左衛門尉頼綱）の質問に答えて蒙古襲来は必ず起こると断言されます。これが3度目の（国主諫暁）となりました。
大聖人の予言通り、同年10月に蒙古の大軍が九州を襲来。これを（文永の役）と言います。これで大聖人が予言された（他国侵逼の難）も現実のものとなりました。

【6】身延入山
3度の諫暁が用いられなかった大聖人は身延に入山し、重要な法門に関する執筆、後継者の育成にあたります。
本門の本尊、本門の戒壇、本門の題目の（三大秘法）を明らかにされました。

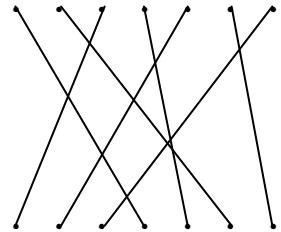
【7】熱原の法難と出世の本懐
大聖人の身延入山後は各地で弟子による折伏弘教が展開されます。特に駿河の国・富士方面では（日興上人）を中心として折伏が大きく進展し、大聖人門下が迫害される事件が次々と起こりました。
（弘安2年9月21日）、富士方面の農民信徒20名が無実の罪で連行されます。
神四郎・弥五郎・弥六郎の三兄弟が処刑され、残る17人は追放されました。
この弾圧を（熱原の法難）と言います。
大聖人門下は異体同心で戦い、21歳の青年（南条時光）が活躍しました。
弟子たちの不惜身命の姿に（出世の本懐）を遂げたと宣言された大聖人は、
（弘安2年10月12日）に（一閻浮提総与の大御本尊）を建立なされました。

【8】御入滅と日興上人への継承
（弘安5年10月13日）、日蓮大聖人は池上宗仲邸にて61歳の御生涯を閉じられました。
大聖人は御入滅の前に後世の広宣流布を弟子の（日興）上人）に付嘱されました。

4月28日　9月12日　10月12日　10月13日　7月16日　2月16日
9月21日　貞応元年　建長五年　弘安二年　弘安五年　弘安四年
文応元年　文永8年　文永9年　文永10年
文永の役　弘安の役　南無妙法蓮華経
開目抄　観心本尊抄　国主諫暁　自界叛逆の難　他国侵逼の難　一閻浮提
大御本尊　法華経　松葉ケ谷　伊豆流罪　佐渡流罪　竜の口の法難
小松原の法難　塚原　一谷　十一通御書　立正安国論　三度の高名
熱原の法難　南条時光　四条金吾　日興上人　人本尊　法本尊
平左衛門尉頼綱　北条時頼　極楽寺良観　東条景信　阿仏房　千日尼
蒙古襲来　二月騒動　立宗宣言　日蓮　発迹顕本
三大秘法　出世の本懐　一閻浮提総与の大御本尊

※次に書かれた出来事や言葉について、上下で関連の深いものを線で結んで下さい。

① 熱原の法難
② 竜の口の法難
③ 立宗宣言
④ 立正安国論
⑤ 他国侵逼難
⑥ 極楽寺良観
⑦ 開目抄



発迹顕本
僭聖増上慢
最初の国主諫暁
人本尊開顕の書
出世の本懐
南無妙法蓮華経の題目
蒙古襲来

【四度の大難について】
※大聖人が遭った大きな４つの法難名と説明の空欄を記入しなさい。

年	法難名	説明
文応元年	松葉ケ谷の法難	念仏者たちに草庵を襲われる
弘長元年	伊豆流罪	幕府によって流罪される
文永元年	小松原の法難	（　東条景信　）の軍勢に襲撃された 弟子が殺され、大聖人は額に傷を負い、左手を折られた
文永８年	竜の口の法難 佐渡流罪	（　平左衛門尉頼綱）らが密かに大聖人の斬首を謀る この法難によって大聖人は（　発迹顕本　）された 処刑に失敗した後、大聖人を流罪した

【三度の高名】
※大聖人が行った３度の国主諫暁について、諫暁した相手と説明の空欄を記入しなさい。

年	諫暁の相手	説明
文応元年	北条時頼	（「　立正安国論　」）を提出した。 （　自界叛逆難　）と（　他国侵逼難　）を予言した。
文永８年	平左衛門尉頼綱	日本の柱である（　日蓮　）を迫害すれば二難が必ず起こると強く諫暁した。
文永１１年	平左衛門尉頼綱	（　佐渡流罪　）から赦免された大聖人が、年内に必ず（　蒙古　襲来　）が起きると予言された。

【重要な御書】
※次の説明にあてはまる御書の名前を記しなさい。

文応　元年７月　北条時頼に提出された国主諫暁の書　（　立正安国論　）
文永　９年２月　佐渡において著された人本尊開顕の書　（　開目抄　）
文永１０年４月　佐渡において著された法本尊開顕の書　（　観心本尊抄　）